

浪江町 《南棚塩地区》 営農再開ビジョン



＜南棚塩地区スローガン＞

津波被災から豊かな農地を後世へ



目 次

1. 「営農再開ビジョン」の策定について	・・・ P2
2. 「営農再開ビジョン」で描く「ビジョン」	・・・ P3
3. ビジョン策定に至る検討経過	・・・ P4
4. 地域の現状について	・・・ P5
5. 農業者意向調査〈調査結果〉	・・・ P6
6. 地域の課題および方向性	・・・ P7
7. 営農再開に向けてこれから始めていくこと	・・・ P9
8. 営農再開に向けたスケジュール	・・・ P10
最後に ～営農再開への想いを込めて～	

1. 「営農再開ビジョン」の策定について

(1) 「営農再開ビジョン」策定の趣旨

現在、浪江町内の各地区では、地域農業の再生を図るため、復興組合を設立し、「福島県営農再開支援事業」を活用し、農地の保全管理を主体とした取組を進めております。



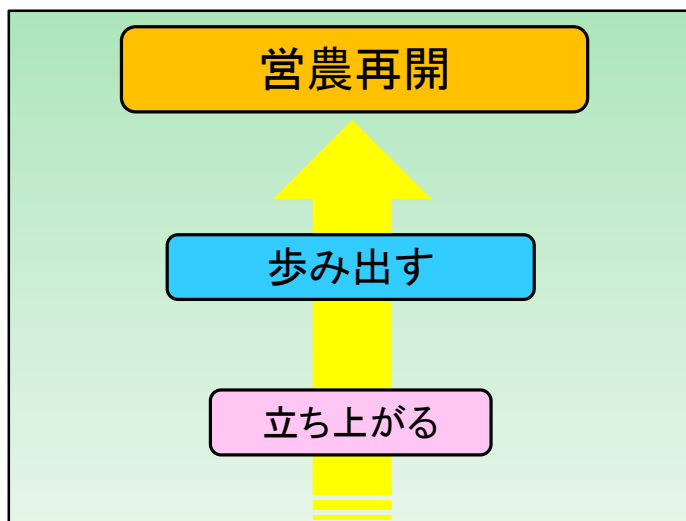
この支援事業を活用した農地の保全管理の取組は、平成31年度まで実施することが可能であり今後、各復興組合のエリアで営農再開が可能となる農地の増加が見込まれております。これに対して、

- ① 復興組合の取組の主体を、「農地の保全管理」から「農地の管理耕作」へシフトさせていくこと
- ② 担い手への農地の集約を進めるため、「人・農地プラン」策定のために、話し合いを進めていくこと

が必要となります。

(2) 「営農再開ビジョン」の性格と役割

- 本格的な営農を再開するために「必要な対応」とそのスケジュールをまとめ、具体的な取組を進める際の重要な指針となっていくものです。



2. 「営農再開ビジョン」で描く「ビジョン」

「ビジョン」には、「未来像」や「展望」といった意味があります。
今回の「営農再開ビジョン」は、地域の座談会や個別面談の中で、
農業者の皆さんが考え、議論して策定に至ったものであります。

端的に表現すると、「営農再開ビジョン」は、下記の内容を描いています。

- ① 「目指す将来の姿」 ～将来のイメージ～
- ② 「構想」 ～「目指す将来の姿」を実現する方法の構築～

各地域の「営農再開ビジョン」の実現は、
浪江町全体の農業再生の将来像や、「福島
県営農再開支援事業」の政策目標につな
がる「大切な指針」でもあります。



各地区の「営農再開ビジョン」

《 目指す将来の姿 》

◎本格的な営農の再開

◎自立した経営の確立

×

《 構 想 》

担い手

インフラ

販売等

◎必要な対応
＝誰が？何を？

◎スケジュール
＝複数年？

3. ビジョン策定に至る検討経過



農業者意向調査1回目

■地域の地権者を対象に、所有面積や営農再開意向等、簡単な内容のアンケート調査を実施

生産組合役員会

■意向調査結果をもとに地区組合役員に課題を出していただき、今後の方向性についての会合を実施

農業者意向調査2回目

■1回目の意向調査より詳細な内容のアンケート調査を実施

農地利用に向けた座談会

■2回目の意向調査結果をもとに地区の災害復旧工事、平成30年度完了エリアの地権者に今後の農地利用ついて座談会を実施

営農再開ビジョン発表会

■策定された営農再開ビジョンを農業者に報告。今後は策定された営農再開ビジョンをもとに地区の営農再開に向けて取り組んで行く



<生産組合役員会の様子>



<営農再開ビジョン発表会の様子>

4. 地域の現状について

(1) 震災後の南棚塩地区



(2) 災害復旧工事エリア

■ 復旧概要

農地面積合計 76ha 内訳: 田 73ha 畑 3ha

※上記面積は黄色点線内面積の合計

施工範囲のうち、ピンク点線範囲の農地復旧については環境省が施工。

用排水施設については浪江町が施工します。

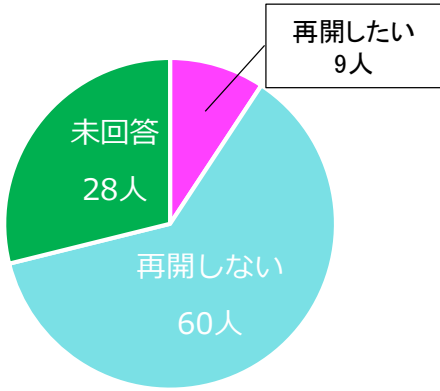


※南棚塩地区災害復旧時の写真
平成31年4月頃農地引き渡し予定

5. 農業者意向調査 <調査結果>

Q. 営農再開の意向はありますか？

■調査実施時期：平成30年12月～平成31年1月迄
 ※南棚塩地区農地所有者97名から回答

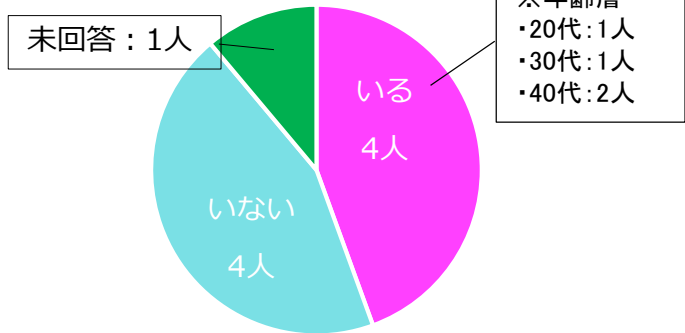


営農再開したい

<理想の営農形態>

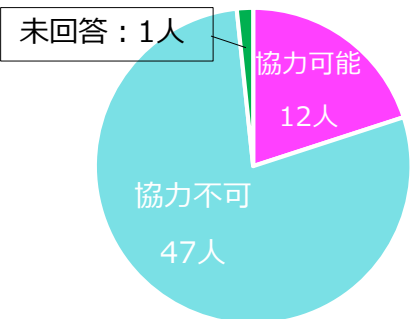


<後継者の有無>

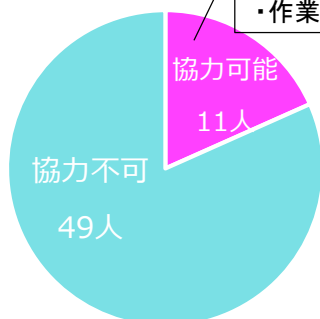


営農再開しない

<維持管理作業協力>



<農作業部分協力>



※協力できる作業
 ・田の水回り：3人
 ・畦畔の草刈：3人
 ・作業補助：5人

津波被災地のための設問

<土地の貸し出し抵抗の有無>



6. 地域の課題および方向性

(1) 浪江町地域の共通課題

先行する3地区(H29年度)における営農再開ビジョン策定の過程で、浪江町として大きく「4つの課題点」が浮き彫りになった。

担い手不足・人材育成

- 農地に比して担い手が少ない。
- 後継がいる農業者が少ない。
- 営農意向が不明な農家がいる。

インフラ② 機械・施設・CE等

- 農機具がない状況である。
- CEなど乾燥・調整設備が必要。
- 集荷し検査できる倉庫が欲しい。

インフラ① 圃場・水系整備等

- 圃場整備で生産性向上が必須。
- 鳥獣被害対策が必要だ。
- 水系が一部復旧していない。

販売先等

- 作ったは良いが、買ってくれるか風評被害が心配である。
- 安定経営できる販路、品目。

(2) 南棚塩地区における今後の農地利用や営農再開への意見

● 農地利用方法や栽培について

- 復旧工事が今年度で終了予定。かつてスーパー圃場と呼ばれた浪江町のシンボルとしての農地利用を進めて行きたい。
- 浪江町共通の課題のうち、販売、生産物が購入してもらえるのかが重要。
- 再開できない人のなかには、所有地を処分したい人もいると思う。
- 農地の買い手が見つかりにくい中では委託することを前提に考える必要があると思う。
- 再開を考えるにしても今後農地で何を栽培していくのか検討が必要。
- 所有地は少ししかないが、浪江に戻り農業を再開したいと思っている。
- 震災前から所有地は委託していた。今後も南棚塩だけではなく室原地区の所有地も委託管理をお願いしたい。
- 自分ではできないので地区で法人化していただき、維持管理をして欲しい。
- 自分自身では再開が難しいので、意欲のある人、条件のあった人に貸したい。
- 地区の農地を管理、栽培してくれるのならば地区地権者でなくとも所有地を任せたい。
- 地区の農地利用について打診があった。

● 復興組合関連

- 復興組合は立ち上げなければいけないと思う。今後は復興組合主導で地権者と時間をかけて議論していく必要があると思う。
- 復興組合内作業については外部委託もできるので検討しながら進めて行きたい。

● 今後の動きや計画等について

- 誰がリーダーシップをもって進めて行くのかが重要だと思う。
- 今後は地域をまとめるために年間計画の策定が必要と考える。
- 区長にリーダーシップをもって地域をけん引してほしい。そのための協力をしたい。
- 今後はアンケート結果を踏まえたうえで議題を定め、事前に地権者、参加者に議題を共有し、議題についての考えを発言していただく方が会合がうまく行くと思う。

6.地域の課題および方向性(2)

(3)今後の地区の方向性

・復興組合設立

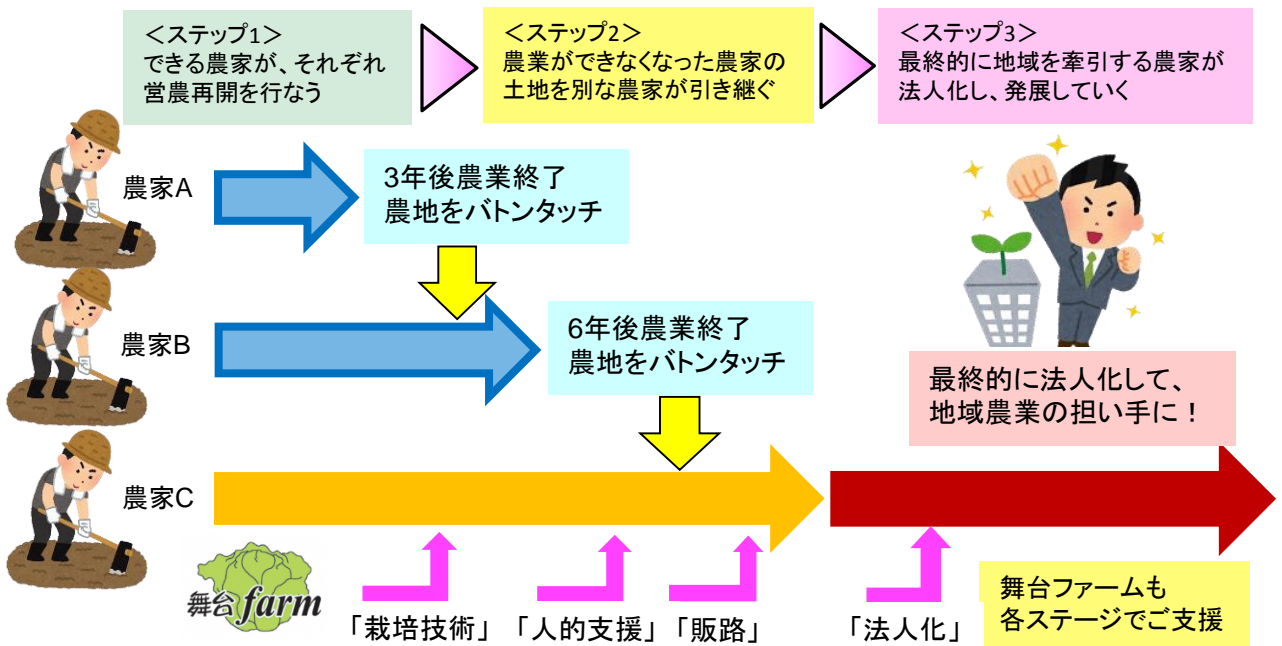
→2020年度営農再開に向けて、地区で栽培できるように農地を整えていく

・浪江町共通の課題

→人・農地プラン策定に向けて、今後の担い手問題や再開希望者の機械、設備問題、地区で栽培していく作物の検討や生産物の販路問題を解決するために復興組合主導で地区地権者と協議していく

◎「リレー方式」：農業を継続できる農家・法人が、地域農業を牽引

⇒継続できる農家が継続できない農家を引き継ぎ、最終的に地元農業を牽引していく仕組みを構築する。



⇒外部からの人材確保と協力先の呼び込みを図る
⇒人・農地プランの策定と実現に向けて話し合いを進めていく

7. 営農再開に向けてこれから始めていくこと

乾燥調製施設(カントリーエレベーター)の整備について

水稻の営農再開においては、稲刈り時における乾燥調製設備が不可欠であり、また合わせて米穀検査・放射線の全袋検査を実施する設備が現在浪江町内に存在しない状況となっております。南棚塩のみならず、各地区座談会において課題として挙げられています。

平成32年度には保安全管理に関する助成金が停止となりますが、農業者による営農再開を促進するために、乾燥調製設備の整備が求められます。

南棚塩地区においては、営農再開ビジョン策定の中で、下記の通り再開見込面積の推移と担い手数からコメの収量をシミュレーションし、必要となる乾燥調製施設の規模を算定していくこととします(再開想定比率及び収量は一例)。



<再開見込面積>

担い手	再開意向	人数		水稻農地	
		人数	比率	面積(ha)	比率
復旧工事内地権者	再開する	1	1.0%	0	0.0%
	検討中	5	4.9%	11.5	14.4%
	再開しない	10	9.7%	20.0	25.0%
	意向不明①	7	6.8%	13.4	16.8%
他地権者	意向不明②	80	77.7%	35.1	43.9%
合計		103	100.0%	80	100.0%

※2018年12月以前に集計したアンケート結果をもとに算出

圃場状況	H31見込		H32見込		H33見込		H34見込		H35見込		H36見込		H37見込		H41見込	
	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率	面積(ha)	想定比率
H30迄整備済	0.0	0.0%	20.0	25.0%	50.0	62.5%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%
H31～整備予定	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
整備検討中	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
整備しない農地	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
その他	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
合計	0.0	0.0%	20.0	25.0%	50.0	62.5%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%	80.0	100.0%

H32年から営農再開。外部参入企業により耕作を想定。

<生産量見込>

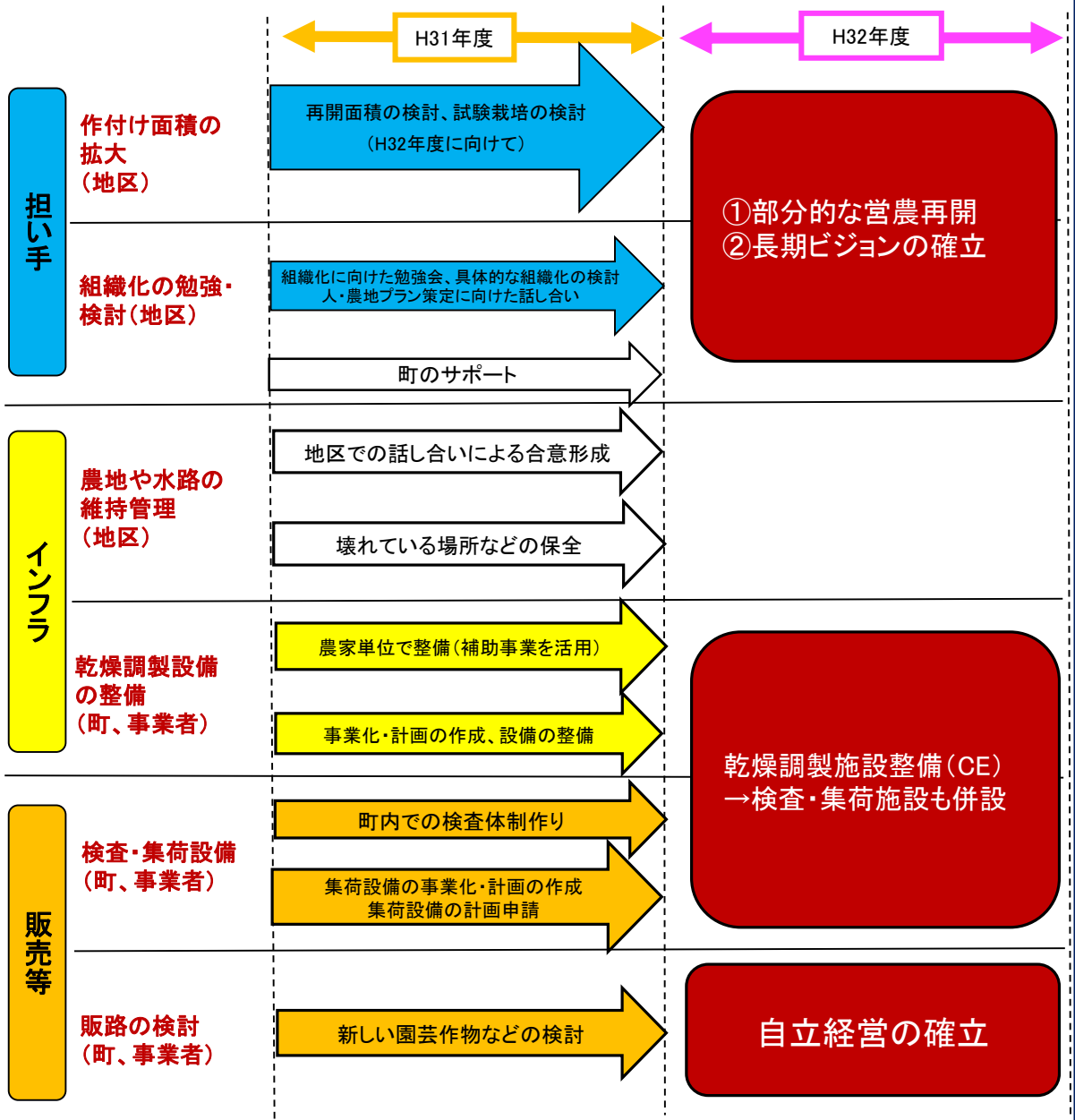
うるち米	H31見込		H32見込		H33見込		H34見込		H35見込		H36見込		H37見込		H41見込	
	単収(kg)	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	収量(t)	作付比率	
508	0.0	100%	101.6	100%	254.0	100%	406.4	100%	406.4	100%	406.4	100%	406.4	100%	406.4	100%

⇒ 支援対象の全地区について同様の算定を実施し、浪江町として拠点となる施設の規模と具体像を検討します。

8. 営農再開に向けたスケジュール

今年以降の2カ年間のスケジュールを策定し、
課題をひとつひとつ確認し、また、それを解決していき、段階を追って、
「本格的な営農再開」と「自立経営の確立」を目指します。

「今後の方向性」と「必要な対応」のスケジュール



最後に～営農再開への想いを込めて～

< 行政区長メッセージ >

東日本大震災及び原発事故から8年経とうとしております。東日本大震災の津波被害により南棚塩は災害がれきだらけの地域になってしまいました。

原発事故の影響で避難指示が浪江町及び福島県各所が出され、浪江町南棚塩地区の避難指示解除になったのが2年前になります。避難指示解除から今まで農地の災害復旧工事が行われていましたが、3月末をもって災害復旧工事が終了します。

南棚塩は震災以前から圃場整備完了が済み、パイプラインが入り水稻作付を中心とした圃場でした。かつてスーパー圃場と呼ばれた浪江町のシンボルに復帰できるように、各種課題や取り組みをおこなっていきます。

今後の取り組みとしては、復興組合を立ち上げ、ルール作りを行い、組合活動をしながら、復興組合の補助金が無くなる平成31年度末に向けて、土地所有者との話し合いや諸経費問題、賃借料の策定等を進めていきます。

南棚塩、ひいては浪江町の復興に向けて皆様のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

南棚塩地区行政区長 上田 順一

< ビジョン策定協力機関一覧 >

福島さくら農業協同組合・東北農政局震災復興室・
福島県相双農林事務所・福島県双葉農業普及所・
福島県相双復興推進機構・浪江町農業委員会・
請戸川土地改良区・株式会社舞台ファーム